

2025-08-26 13:56

Tahāfut al-falāsifah::20-22

Tahāfut al-falāsifah / al-Ghazzālī. Tahāfut al-falāsifah <i.e. al-tahāfut> / Ibn Rushd al-Andalusī al-Mālikī. Tahāfut al-falāsifah / Khūjah Zādah

URL > <https://babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=uf1.31262055223795&seq=16>

【出典基本情報】

原典:: Tahāfut al-falāsifah

著者:: al-Ghazzālī

成立時期:: unknown

成立場所:: unknown

関連著作:: Tahāfut al-falāsifah / Ibn Rushd al-Andalusī al-Mālikī, Tahāfut al-falāsifah / Khūjah Zādah

巻.章.節:: 20-22

原典概要::『哲学者の矛盾』は、11世紀末から12世紀初頭にかけて活躍したイスラム神学者・法学者・詩人であるアル＝ガザーリー (Abū Ḥāmid Muḥammad ibn Muḥammad al-Ghazālī) が著した哲学書である。本書では、アリストテレス哲学やその継承者であるイスラーム哲学、特にイブン・スィナー (Avicenna) の哲学体系に対し、イスラム教の教義に反するとして批判を展開している。哲学者の学説を「矛盾」「誤謬」として逐一論破していく手法は、後世に大きな影響を与えた。特に、神の行為、世界の創造、魂の不死といった形而上学的なテーマについて、哲学者の見解をイスラム教の観点から厳しく断罪している。本書は、イスラム世界における哲学と宗教の関係を巡る論争において、決定的な一石を投じたとされる。

【目次】

レポートが完成した後に、ここに目次を挿入してください: [挿入]>[ページ要素]>[目次]

【原典の世界観:「存在」の観念】

<中心観念>::["アル＝ガザーリーによる哲学者の主張へのイスラム教的観点からの批判"]

<主要観念>::["天球の意思による運行の否定","神の必然性や属性に関する哲学者の主張の否定","天球の魂による世界の事象への関与の否定","事物間の必然的な因果関係の否定","人間の魂の独立した実体としての存在の否定","人間の魂の不滅性の否定","肉体の復活の否定","神の意志と行為の必然性"]

【原典の世界観:「時間」の観念】

<既在の認識>::["天球の運行は意思によるという主張を否定している。","神の存在や属性に関する哲学者の主張を否定している。","天球の魂が世界の個別事象に関与するという主張を否定している。","事物間に必然的な因果関係があるという主張を否定している。"]

<将来の認識>::["天球の運行は必然的な法則に基づくものであり、意思によるものではない。","神の存在や属性は、人間の理性を超えたものであり、哲学者の主張は誤りである。","天球の

魂は世界の個別事象に関与する能力を持たず、その主張は根拠がない。","事物間の因果関係は必然ではなく、神の意志によって決定される。"]

【原文の概念構造】

--<統合概念>--

0:: アル＝ガザーリーによる哲学者の矛盾の批判

--<重要概念>--

1:: قواهم (彼らの力)

2:: الارادة (意志)

3:: الفرض لله (神への仮定)

4:: نفوس السموات (天空の魂)

5:: الجزئيات الحادثة (生成する個別的的事物)

6:: الاقتران (結合)

7:: المسببات (原因)

8:: جوهر مجرد (抽象的実体)

--<概念構造>--

具体概念:

- نفوس السموات (天空の魂)

- الجزئيات الحادثة (生成する個別的的事物)

- الاجساد (身体)

複合概念:

- 天空の魂

- 抽象的実体

- 生成する個別的的事物

- 神への仮定

普遍概念:

- 意志

- 神

- 魂

- 実体

個別概念:

- アル＝ガザーリー

- アリストテレス

- イブン・シーナー

抽象概念:

- الارادة (意志)

- الفرض لله (神への仮定)

- جوهر مجرد (抽象的実体)

- استحالة (不可能性)

関係概念:

- ～を批判する

- ～に反する

- ～と結合する

- ～の原因となる

- ～から派生する

属性概念:

- 抽象的

- 生成する
- 必要
- 不可能

単一概念:

- 意志
- 力
- 魂
- 世界

--<現在認識の構造>--

[既在認識]: 哲学者の見解はイスラム教の教義に反しており、矛盾や誤謬を含んでいる。

[将来認識]: 哲学者の誤った見解を逐一論破し、イスラム教の真理を示すことで、哲学と宗教の関係における論争に決着をつける。

قواهم ان السماء ترك بالارادة 1::

以下のBNFの指示に従って<解析結果>を出力せよ。

<解析結果>::=<参考情報>を参考に、<対象文節>を<原典テキスト>の文脈に沿って現代の日本語で簡潔に翻訳せよ。

<原典テキスト>::=["1:: في ابطال ماذكروه من الفرض لله وكالاسماء\n2:: قواهم ان السماء ترك بالارادة\n3:: في ابطال قواهم بوجوب الاقتران وامتناع\n4:: ابطال قولهم ان نفوس السموات مطالعة على الجزئيات الحادثة في هذا العالم\n5:: في ابطال\n6:: في تجويزهم من اثبات ان نفس الانسان جوهر مجرد قائم بذاته\n7:: الانفكاك بين الاشياء العادية والمسببات\n8:: في ابطال قولهم بنفي البعث وحشر الاجساد\n9:: اني من ما لازم لذاته\n10:: قولهم باستحالة الفناء على النفوس البشرية وخالفت الفصل الأول في ابطال وجود موجب قد تم بشرائط\n11:: وترجيح الفعل انها بارادته\n12:: بحيث يستحيل انفكاكه عنه بل وجود الموجب\n13:: ثم يتأخر عنه الموجب\n14:: حتى لم يبق شئ منتظر اليته\n15:: ايجابه وأركانه وأسبابه حاصلة حسب استحالة قولهم المبدأ الأول وجود الحادث\n16:: وتأخره محال\n17:: عند تحقق الموجب بتمام شروطه ضروري\n18:: ونسبتها الى المراد موجودة\n19:: فقبل وجود العالم كان المرید موجودا والارادة موجودة\n20:: الموجب بلا موجب\n21:: فان كل ذلك تغيير\n22:: اولاً تجددت للارادة نسبة لم تكن قبل\n23:: ولم يتجدد مرید ولم تتجدد ارادة"]

<参考情報>::=<原典基本情報><翻訳原本>

<原典基本情報>::={"原典":" Tahāfut al-falāsifah","著者":" al-Ghazzālī","成立時期":" unknown","成立場所":" unknown","関連著作":" Tahāfut al-falāsifah / Ibn Rushd al-Andalusī al-Mālikī, Tahāfut al-falāsifah / Khūjah Zādah","卷.章.節":" 20-22","原典概要":"『哲学者の矛盾』は、11世紀末から12世紀初頭にかけて活躍したイスラム神学者・法学者・詩人であるアル＝ガザーリー (Abū Ḥāmid Muḥammad ibn Muḥammad al-Ghazālī) が著した哲学書である。本書では、アリストテレス哲学やその継承者であるイスラーム哲学、特にイブン・シーナー (Avicenna) の哲学体系に対し、イスラム教の教義に反するとして批判を展開している。哲学者の学説を「矛盾」「誤謬」として逐一論破していく手法は、後世に大きな影響を与えた。特に、神の行為、世界の創造、魂の不死といった形而上学的なテーマについて、哲学者の見解をイスラム教の観点から厳しく断罪している。本書は、イスラム世界における哲学と宗教の関係を巡る論争において、決定的な一石を投じたとされる。"}</p></div>
<翻訳原本>::=[""]</p></div>
<対象文節>::=["قواهم ان السماء ترك بالارادة"]</p></div>

في ابطال ماذكروه من الفرض لله وكالاسماء 2::

神に対する仮定と氏名についても、彼らが言及したものを否定することについて

في ابطال قولهم ان نفوس السموات مطالعة على الجزئيات الحادثة في هذا العالم 3::

天空の魂がこの世界の偶発的な出来事を知覚するという彼らの主張を否定すること。

في ابطال قواهم بوجوب الاقتران وامتناع الانفكاك بين الاشياء العادية والمسببات 4::

通常の事象とその原因との間には、必然的な結合と分離不可能性を主張する彼らの能力を無効にすることについて

في تجويزهم من اثبات ان نفس الانسان جوهر مجرد قائم بذاته 5::

人間の魂がそれ自体で存在する独立した実体であると証明することの許容性について

6:: في ابطال قولهم باستحالة الفناء على النفوس البشرية

人間の魂は滅びないという彼らの説を否定する。

7:: في ابطال قولهم بنفي البعث وحشر الاجساد

死者の復活と身体の復活を否定する彼らの主張の誤りを論証する。

8:: ني من ما لازم لذاته

それは、それ自身の本質として必然的に伴うものである。

9:: بحيث يستحيل انفكاكه عنه

それは彼から分離することが不可能であること

10:: وترجيح الفعل انها بإرادته

行為の選択はその意志によるものである。

11:: وخالفت الفصل الأول في ابطال وجود موجب قد تم بشرائط ايجابه وأركاناه وأسبابه حاصلة

第一章(第一節)にて、その成立条件、構成要素、原因がすべて備わった原因者の存在を否定したことと、私は異なると述べている。

12:: حتى لم يبق شئ منتظر البتة

待つべきものは何も残っていない

13:: ثم يتأخر عنه الموجب

すると、原因がそれに遅れる。

14:: بل وجود الموجب عند تحقق الموجب بتمام شروطه ضروري

むしろ、原因がその諸条件を完全に満たすとき、原因の存在は必然である。

15:: وتأخره محال

そして、それ(原因(主語)が結果(対象)より遅れること)は不可能である。

16:: حسب استحالة قولهم المبدأ الاول وجود الحادث الموجب بلا موجب

彼らが「第一原理は、無原因の付随的な原因の存在である」と主張する際の、その主張の不可能性について

17:: فقبل وجود العالم كان المرید موجودا والارادة موجودة

世界の存在以前に、意志する者も存在し、意志も存在した。

18:: ونسبتها الى المراد موجودة

その意志対象への関係性を、それが存在するように(設定した)。

19:: ولم يتجدد مرید ولم تتجدد ارادة

「意志を持つ者や意志そのものが新たに生じたわけではない」

20:: ولا تجددت للارادة نسبة لم تكن قبل

そして、以前はなかった意志の関連性が新たに生じることはない。

21:: فان كل ذلك تغيير

そのすべてが変化だからである。

--<註釈>--

「فان كل ذلك تغيير」は「そのすべてが変化だからである。」と訳されます。この文節は、アル＝ガザリーが神の意志による世界の創造を論じる文脈において、哲学者の見解を反駁するために用いられています。アル＝ガザリーは『Tahāfut al-falāsifah』(哲学者の矛盾)において、アリストテレス哲学およびその継承者であるイブン・スィナーの哲学体系がイスラム教の教義、特に神の絶対性、永遠性、そしてその自由意志による創造という概念と矛盾すると批判しました。この著作は11世紀末から12世紀初頭のイスラム思想界における哲学と宗教の関係を巡る主要な論争点となりました。本節は、神が特定の時点を選んで世界を創造したという彼の主張に対し、哲学者が「それでは神の意志に変化が生じたのではないか？変化は不完全さを示すものではないか？」と反論する問いかけに対する、ガザリーの見解を示しています。アル＝ガザリーは、神の本質や意志そのものに時間的な変化が生じることを否定します。なぜなら、もし神の本質や意志そのものが変化するとすれば、それは神の絶対性、永遠性、不変性といったイスラム教の最も基本的な神学的教義に反することになるからです。彼が主張するのは、神の意志が永遠に存在し、その意志が自由な選択によって世界の創造という結果をもたらした時、神自身の内部に本質的な変化が生じたのではなく、ただその「意志の対象との関係性」において変化が生じたに過ぎないということです。つまり、「そのすべてが変化だからである」というこの文は、もし神の意

志や本質そのものに変化が生じると仮定するならば、それはイスラム教の神の概念と根本的に矛盾することを強調する形で、哲学者の推論の不整合性を指摘しています。これは、アル＝ガザリーが神の自由意志と超越性を守りながら、哲学者の必然論的創造観を打破しようとする彼の思想の中心的な部分を反映しています。

--<考察問答>--

質問:: 1.この文節の主張が現代西洋哲学やキリスト教においてどのような意味を持つか具体的に示せ。

回答::「そのすべてが変化だからである」というアル＝ガザリーの文節は、神の意志や本質が時間的に変化すると仮定することの神学的な矛盾を指摘するものです。これは、イスラム哲学の文脈における神の絶対性、永遠性、不変性を守るための議論であり、現代西洋哲学やキリスト教神学においても同様の重要な意味を持ちます。

1. **現代西洋哲学における意味:**

* **神の不変性 (Divine Immutability) と時間性 (Temporality) の論争:** アル＝ガザリーの議論は、神が時間の中の特定の瞬間に世界を創造したとすると、神自身に変化が生じるのではないかという古典的な問題を提起しています。現代西洋哲学、特に分析哲学の宗教哲学部門では、神の不変性、永遠性(時間外存在か、時間を貫く存在か)、そして世界との相互作用をどのように両立させるかという議論が活発に行われています。もし神が時間的に変化するとすれば、それは神の完璧性、絶対性、超越性を損なうと考えるのが伝統的な見解です。

* **プロセス神学 (Process Theology) への対比:** 現代の一部の神学者や哲学者は、この伝統的な神の不変性を批判し、神もまた世界と共に進化し、変化すると考える「プロセス神学」を展開しています。アル＝ガザリーの主張は、このプロセス神学とは真っ向から対立する立場であり、神の本質的な不変性を強調します。この文節は、神の性質に関する根本的な相違を浮き彫りにする点で重要です。

* **自由意志 (Voluntarism) と必然性 (Necessity) の議論:** アル＝ガザリーは、哲学者が主張するような世界が神から必然的に流出するという考え(イブン・スィナーの「流出説」に代表される)を批判し、神が自由意志によって世界を創造したと主張します。彼の「変化」に対する懸念は、もし創造が必然であるとすれば、神の意志が外部の要因によって変化するという不完全さを意味するという哲学者の反論に対する応答です。これは、神が自身の本性に基づき必然的に世界を創造したのか、それとも自由な選択によって創造したのかという、宗教哲学における長年の議論につながります。これはライプニッツの「可能な限り最善の世界」を選択したという思想などにも通じる、神の選択と創造の自由を巡る問いの原型とも言えます。

2. **キリスト教神学における意味:**

* **神の不変性 (Divine Immutability) と創造 (Creation ex nihilo):** キリスト教神学もまた、伝統的に神の不変性を強く主張します。アウグスティヌスやトマス・アクィナスといった主要な神学者たちは、神自身の本質は時間的な変化を受けないと考えました。神の世界創造 ("creatio ex nihilo" - 無からの創造) は、神の自由な意志と力によって行われたものであり、神の内部に変化をもたらすものではないとされます。アル＝ガザリーのこの文節は、神が創造を「いつ」行ったとしても、神の本質そのものが変化したわけではないという、キリスト教の伝統的な神理解と深く共鳴します。神の意志は永遠であり、その意志の対象が時間の中で実現されるだけだという理解は共通しています。

* **神の全能性 (Omnipotence) と超越性 (Transcendence) の擁護:** 神の本質が変化するという考えを否定することは、神が被造物や時間的制約に左右されない、絶対的で超越的な存在であるというキリスト教の教義を擁護することにつながります。もし神が変化するとすれば、それは神が不完全であるか、外部の要因に影響を受けることを意味し、神の全能性と超越性が損なわれると見なされます。

* **神の介入 (Divine Intervention) と神の本性:** キリスト教における神の摂理、奇跡、あるいは受肉といった概念も、不変の神が時間の中でいかに活動するかという問いを提起します。アル＝ガザリーの議論は、神の本質は変わらなくとも、その意志の"結果"や"対象"が時間的に変化することは可能であるという、この複雑な関係性を理解する上で重要な思考の枠組みを提供します。

【原典ソース】

- قواهم ان السماء ترك بالارادة ::1
- ::2 في ابطال ماذكروه من الفرض لله وكالاسماء
- ::3 في ابطال قولهم ان نفوس السموات مطالعة على الجزئيات الحادثة في هذا العالم
- ::4 في ابطال قواهم بوجوب الاقتران وامتناع الانفكاك بين الاشياء العادية والمسببات
- ::5 في تجويزهم من اثبات ان نفس الانسان جوهر مجرد قائم بذاته
- ::6 في ابطال قولهم باستحالة الفناء على النفوس البشرية
- ::7 في ابطال قولهم بنفي البعث وحشر الاجساد
- ::8 ني من ما لازم لذاته
- ::9 بحيث يستحيل انفكاكه عنه
- ::10 وترجيح الفعل انها بارادته
- ::11 وخالفت الفصل الأول في ابطال وجود موجب قد تم بشرائط ايجابه وأركانه وأسبابه حاصلة
- ::12 حتى لم يبق شيء منتظر البتة
- ::13 ثم يتأخر عنه الموجب
- ::14 بل وجود الموجب عند تحقق الموجب بتمام شروطه ضروري
- ::15 وتأخره محال
- ::16 حسب استحالة قولهم المبدأ الأول وجود الحادث الموجب بلا موجب
- ::17 فقبل وجود العالم كان المريد موجودا والارادة موجودة
- ::18 ونسبتها الى المراد موجودة
- ::19 ولم يتجدد مريد ولم تتجدد ارادة
- ::20 ولا تجددت للارادة نسبة لم تكن قبل
- ::21 فان كل ذلك تغيير

【翻訳ソース】